



魔術師と女魔物の化身 2

小説 水坂早希 挿絵 高浜太郎

立ち読み版

第一章	晒された楓	008
第二章	性玩具としての日々	065
第三章	魅入られた生徒	106
第四章	肉の香炉	136
第五章	淫獄の宴	189
終章		238

## 登場人物紹介

Characters



さいみや ひなみ

**犀宮 楓**

高名な魔術結社<犀宮>のただ一人の生き残り。大アルカナの一つ「恋人」をその身に宿している。アルカナの化身達を魅了する「性質」として覚醒させられてしまう。



**フレイスター・シュタインヴェル・ソールズベリー**

通称フレイ。楓いつも学園一位の座を争う程の魔術師で良きライバル。

きりしま たかふみ

**霧島 貴文**

霧島魔術学園の理事長であり、魔術結社<霧島>のマスター。楓の母の兄で実の伯父にあたる。

**アルミニ**

楓が契約した「死神」のアルカナの化身。

さいじ せいじ

**犀司 清二**

代々<犀宮>に仕えていた<犀司>の末裔。楓を「性質」に仕立て利用することで、全てのアルカナを統べようと目論んでいる。

## これまでのあらすじ

世界は、宝瓶宮アケエリアスの時代へ突入した。魔術師達の世界ではそれは新たな神の時代へと移ったということの意味する。不在となった神の座を埋める為には、世界に実体化した大アルカナの化身達を全て成仏、もしくは従属させることが必要だという。十年前。犀宮楓は幼い頃両親を何者かに殺され、その際に楓の肉体にはアルカナ達の理性を奪い魅了してしまふ「性費」にする為の細工をされてしまふ。そして楓は自分の運命に立ち向かうべく「死神」のアルカナ、アルミニと契約を結び闘いに臨む。

徐々に激しくなるアルカナを従えた魔術師達の闘い。

しかし闘いの最中に学友でライバルでもあるフレイが楓を「性費」へと仕立てようとしている黒幕、犀司清二に捕らわれてしまふ。救出に向かった楓はアルミニにフレイを連れて脱出するように命じ、自身は捕らわれてしまふ。

遂に処女を奪われ「性費」として完成してしまつた楓は――。

# <主要キャラクター&アルカナ相関図>



——赤いミニスカートの左右の裾だった。楓は恐る恐る下を見た。

スカート裾が縛られた状態でしゃがんだため、フレア布がすっかり裏返しになっている。ほっそりとした白い腹の中心で、お臍が可愛らしく上下しており、さらに下では、ふつくとした無毛の恥丘を縦に割っていやらしく抉れ走る陰裂が丸見えになっていた。

わなわなと美貌を上向かせると、楓のコンプレックスである幼女のような陰唇が、天井や壁にあらゆる角度で大写しになり、幾十もの縦皺を晒していた。楓のすべてが灼熱する。「——い、いやあああああああッ！みんな、私のこんなとこ見ないでッ!!」

弾かれたように立ち上がって赤いブーツを爪先立ちにすると、捲れたミニスカートがようやく戻って陰唇が隠れた。一拍おいて客席がざわめき、犀司たちが哄笑する。

「驚いたでしょう？これほど麗しく成長した楓お嬢様に、先ほどの幼少時の映像と変わらぬ……いえ、さらに淫らな幼い陰唇がついているのですから。一ヶ月にも及ぶ精液拷問で括約筋を極限まで締めつけさせた結果、幼裂が一生消えなくなったのでしような。性費の器にされた影響で恥毛も一本も生えず、陰唇にふつくと脂肪が乗っていやらしく成熟するも幼裂は縦に走ったまま。なんとも可愛らしくも淫猥な陰肉に育ったものです」

犀司に陰唇の生い立ちを解説され、楓はうつむいたまま美乳と結んだ髪房を振り乱した。「ヒヒヒッ。まだ胸のいやらしさの説明は終わってねえぜ？その恥ずかしく食いこんだ幼女まんこを見られたくねえなら、せいぜい可愛らしく爪先立ちしてることなあ」

吊られた男と法王による胸髑りが再開されると、呆気なくカクンと膝が折れた。

再度裏返った赤いスカートの中から、縦皺が抉れ食いこむ陰唇と丸く可愛らしい桃尻が落ちてくる。

「や、やあっ!?!」と紫の瞳を羞恥で潤ませて立ち上がろうとした楓を嘲笑うように、男たちの両手、四本がかりによる美乳の苛烈な揉み上げが始まった。

片手で乳腺がとろけるほど乳房を揉みくちやにされながら、もう一方の手で乳輪ごと乳頭を摘まれて、熱固く癒じる桜肉をぐりぐりと丹念にほぐされる。

たまらず甘汗を滲ませてさらに勃起した両乳首を、幼児の陰茎を虐待するようにぐしゅぐしゅとしごき立てられる。

「ひっ……ち、乳首までそんな滅茶苦茶にい……い、やあ……前も後ろもみんなに見られてるう」

楓はもう泣きそうになったが、過敏な美乳から送られる猛烈な性感が子宮から爪先まで波及して、黒いニーソックスに包まれた膝に力が入ってくれない。

再び淫気が湧いていやらしい自分に戻され、淡く達しつ放しになつてしまふ。

中腰になったまま剥き出しのお尻と幼陰唇を、絶頂を見せつけるようにヒクンヒクンと跳ねさせることしかできない。

舞台で照明を浴びているため、ぐちゃぐちゃにされている美乳やきめ細かい桃尻がキラキラと甘汗を弾いて躍る様も、陰唇からむわりと立ち上る雌匂の湯気も丸わかりだ。

刻々とぬめつていく幼陰唇を視線で焼かれるのに耐えきれず、楓は極端に腰を引いた。「ヒヤハッ。どうした、そんなに尻を突き出して。肛門までみんなに見て欲しいのか？」

「ククク。前から伸びた陰裂で尻穴まで埋もれておるわい。なんといやらしい陰肉だ」  
法王の嘲笑通り、突き出された尻谷には陰裂が深く長く走るだけで、菊皺の一本すら見えなかった。恥ずかしさで楓の肉筋が、股縄を引かれたようにキュウツツと深くなる。

「ほら、なにを隠してるの。綺麗な肛門してるんだから遠慮なく見せびらかしなさいな」  
女帝の両指が楓の震えるお尻に食いこみ、閉じた尻房をぐちりと左右に広げられた。

「ひん!？」と天井の映像を見上げてしまうと、女帝の十指の間で幼女の唇のように可憐な桃色をした排泄口が、十メートルもの菊皺をヒクつかせていた。生徒の悲鳴が湧きあがる。

二百もの視線が桃菊に唐辛子のごとく染み入り、楓の肛門粘膜中が、かあっと灼熱した。  
「お、お、お尻の穴までえ…あぐう…そんなに開いて大映しにするなああッ!」

いくら可憐な色をしているとはいえ女の子が、人の最も不浄な肉である排泄口を、見知った全校生徒に晒されてしまったのだ。

楓は耳たぶまで紅潮させて、女帝の両指が食いこむ桃尻を勢いよく引いた。

そのはずみで客席へ恥丘を突き出すと、潰された葡萄のようにむちりと肉豆が剥け飛び出し、縦皺の始点にギチュリと挟まってしまう。

陰核から脳天まで性感の針で貫かれ、楓は甘汗で輝く肢体を「ひゃぐん!？」と反らせた。楓の陰唇は幼い外見に反して成熟しているため、こうしてなにかの拍子に陰核包皮が捲れると、肉豆が縦皺にきつく挟まったまま戻らなくなるのだ。普段なら触覚の遮断をしてトイレに駆けこめば済むが、魔術と両手が封じられている今はどうしようもない。



おろおろと天井の映像を見ると、小さな桜豆が幼裂の始点からちよこんと顔を出して可愛らしく震えているのが丸わかりになっていた。

二百もの視線が陰核一点に集中しているのがわかり、楓の羞恥が爆発する。たまらず指で包皮を戻そうとした瞬間、

「誰が手を使っていいっていったの？ クリトリスが捲れたくらい我慢なさいな！」

女帝にバチンと尻房に朱色の手形をつけられ、衝撃で桜豆がさらにぬめり出る。

楓は尻打ち一発で「ひゃん!？」と達してしまい、怯えたように両手袋を外腿に戻した。

恥丘を引こうにも、お尻を突き出したらまた排泄口を全校生徒に晒されてしまう。

楓は恥ずかしさで歯を鳴らしながらも痴女のごとく腰を突き出したまま、黒いニーソックスで締まる美脚を擦り合わせて、肉締めされている陰核をなんとか戻そうと苦悶した。

だが、白腿や桃尻が右に左にと艶めかしく躍るたびに、幼陰唇の両羽根が前後にずれ動いて桜豆をぬめり転がすばかりで、丸見えになった陰核は肉蓋に潜りこむ気配すらない。

胸だけでなく陰核でも断続的に淡く達するようになり、楓は「ひうう」と涙ぐんだ。

「ヒヤハハ。クリトリスでもイキ始めたみてえだな。おい見てみな！ お前らのマドンナが、とうとう我慢できずに股をこすってオナニーショーまで始めやがったぞ」

吊られた男に嘲笑されてひときわ生徒たちにざわつかれると、楓の脳裏が灼熱した。

「へ、変なことというな馬鹿あつ…あぐツ…わ、私はそんないやらしいことしてるわけじゃ」  
楓は誤解を解こうと、股擦りをやめて膝を開いていったが、もはやどれだけ恥ずかしく

開脚しようと桜豆は幼裂に挟まったままだった。

それどころか絶頂の波そのままに、陰肉が淫猥な痙攣を始めてしまう。

揉みしだかれる双乳と連動するように、幼陰唇の肉羽根が上下左右にと躍り回り、虐待され続ける両乳首と同じ苛烈さで、腫れた陰核がクリユクリユとすり潰される。

楓は観客へ突き出した幼陰唇を軟体生物のごとくクチクチと蠢かせて、痴女すら赤面するほど卑猥な『手放しオナニーショー』を演じるしかなかった。

「い、いやあ：あそこが勝手に動いてえ：ひぐッ——もう、もうクリトリス外れてえッ」  
「手を使わないどころか脚もこすらず自慰ができるとは、さすがは性玩具ですな」

犀司に鼻で笑われた楓は恥ずかしさに耐えきれず、リボンで結われた髪房を振り乱した。そうして可愛らしく身悶える間にも、糸で吊られたようにキュウキュウと縦皺を持ち上げる桜豆が、火起こしの棒のごとく摩擦されて、陰核絶頂が際限なく加熱していく。

——と、ふいに楓の恥骨がぶるりと震えた。

女の子の急所である三肉豆をこすられ続けたせいで、いつの間にか膀胱に尿と潮が限界まで溜まっていたのだ。下腹を痙攣させた楓に目ざとく気づいた法王が、にやりと笑う。

「どうやら絶頂のしすぎで尿が溜まっておるようだな。もう失禁寸前ではないのか？」

「ヒヤハ、そりゃいい。おい、お前らのマドンナが、今度は放尿ショーまで見せてくれるらしいぞ！ せっかくだから、性玩具らしい恥ずかしい格好でぶちまけさせてやるぜえ」

ようやく双乳を解放されたのも束の間、天上から降りてきた縄に右足首が縛られた。

右の赤いロングブーツを一気に持ち上げられ、たまらず陰唇を隠そうとした黒い両手袋も縄に絡み取られる。

楓は右足首と両手首を頭上で一まとめに縛り上げられてしまった。

赤いロングブーツと黒いニーソックスで締まった美脚が百八十度まで広げられ、限界まで割られた桃尻から熟れ弾けるように、幼陰唇がぐちゅると客席へ迫り出してしまふ。

全校生徒にどよめかれ、楓の丸見えになった柔尻中がボツと火を噴いた。

「や、やあぁっ、脚放せえッ：あうう：こ、こんな恥ずかしい格好で漏らすの、やだぁ」灼熱した視線からなんとか陰唇を隠そうと身をよじると、大開脚を強いられて片足で爪先立ちさせられているため、釣り合い人形のようにゆらゆらと肢体が回ってしまう。

横一文字に走る幼裂が羞恥と尿意でキュウキュウと伸び縮みする様が、まさに見せ物のごとく全方位へ晒され、楓は紫の瞳一杯に涙を浮かべて美貌を左右へ振った。

「吊られた男、法王。楓お嬢様は視線で感じすぎて漏らせないご様子。これ以上我慢させではお可哀想だ。膀胱に溜まった小水を掻き出してやれ。楓お嬢様が大好きな方法でな」なにをされるのか瞬時にわかり、楓の双乳と結んだ二本の髪房がビクンと跳ねた。

「そ、それだけはやめてっ、みんなの前でそんな恥ずかしいこと——ひゃぐんッ!!」

横一文字の幼裂に埋まって窄まっていた桃菊に、吊られた男と法王の人差し指二本が、いきなり根元までぐちゅると埋まった。絶頂で滲み出た透明な腸液ですでに直腸がまん丸と膨らんでいたため、呆気なく丸呑みしてしまったのだ。

猛烈な異物感を伴った黒い肛門性感で、楓の背筋がぞわりとする。

直腸の中で二指が膀胱側へ曲がり、腸壁と膣壁を押し伸ばした指の腹が、陰核深部で脈打つ腫れた肉にグリリとかかる。情け容赦なく二指が素早く屈伸して、可愛らしく鳥肌立った桃尻ごと揉みしだくような苛烈なGスポット責めが、ぐちぐちと始まった。

「お尻からそこすられるの、やだやだやだやだやだやだやだやだやだやだああああ——ッ」

排泄するだけで達してしまうほど過敏な直腸をこね回されながら、膣管まで巻きこんで、女の子の急所をこすられているのだ。楓の脳が白く潤み、唇から舌と涎がどろりと垂れる。

不浄な排泄口まで嬲られている学園のマドンナの悲惨すぎる姿に、女子の悲鳴が響く。

小水で張り詰めた膀胱へさらに潮が雪崩れこみ、楓の排尿欲が爆発する。

肉袋を極限まで膨らまされ、とろけた桃菊から腸液を粘らせて二指が引き抜かれた。

たまらず息んでしまうと幼陰唇が派手に捲れ裏返り、排出された小陰唇が桜色の肉花を広げる。ぼこりと開いた膣口と勃ち腫れた陰核の間から、尿口が貝口のごとく持ち上がる。

とうとう楓は透明な尿と潮を勢いよく真横へ、ジュワワワワ——と噴いてしまった。

排尿絶頂が尿道で弾け、白濁した脳裏と子宮が公開失禁の猛烈な羞恥で真っ赤に染まる。

「いやあああああ、見ないでええッ！ あぐう……みんなお願い、目を瞑っててえッ」

「ヒヤハハッ、放尿ショーどころか、もつと淫らな潮噴きショーになっちゃったなあ」

吊られた男の嘲りすら耳に入らないほど、楓の心は追い詰められていた。

連続絶頂と苛烈な指責めで性感帯が腫れ上がった尿道を、潮の奔流にこすられているせ



いで、男の射精を何十倍にしたような、脊椎からゾクゾクとくる絶頂から降りられない。百近くもの照明でライトアップされているため、三メートル先の床まで進る透明な潮や、まん丸と開いた腔口からどろどろと垂れる白濁した絶頂蜜がキラキラと輝き、もうもうと立ち上る甘い湯気が光の粒子となって、楓のぬめり光る肢体を幻想的に彩っている。

とろけた美貌を上向けると、講堂中の人間が楓の痴態に釘付けになっていた。

もはや楓を氣遣つて顔を背けている者など一人もない。

場内にこもった淫気にあてられ、男子はもちろん教師や女子も、大開脚を強いられた美少女が演じる潮噴きショーに陶酔している。救いを求めるように見た生徒会長ですら淫気にやられて、転がされた間近の床の特等席から、楓の痴態を食い入るように視姦していた。猛烈な恥ずかしさで身悶えると、吊られた肢体がまたも回転を始め、楓はさらに追いつめられた。

真横に迸る潮が周囲へ派手に散り撒かれ、舞台上に潮溜まりの大円が描かれる。

まさに恥辱の散水装置と化してしまい、とうとう楓は紫の瞳から涙をこぼしてしまった。「身体回るの止めてえッ：やだあ：こんな恥ずかしい見せ物にされるの、もうやだあッ」

「可愛らしい女の子に、こんないやらしい水芸をさせ続けるのは、さすがに可哀想ね。さつき手でおまんこを隠そうとした罰も兼ねて、お漏らしを止めてあげるわ。ほらッ！」

女帝の手に現出した凶悪な牛追い鞭が空気を引き裂き、楓の柔尻をピシユツと打った。

「ひいんッ!」と尾骨から子宮まで突きこまれた激痛で、桜色の花が萎むしぼように陰唇がく

るまり、幼裂が横一文字に深々と走って楓の潮噴きが断ち切られる。

「これは肌を傷つけずに痛みだけを与えるよう形成した、特殊な鞭よ。今から噴き出すたびに、こうして鞭打ちして反射で肉を締めさせて、お漏らしを止めてあげるわ」

「ククク。では我も楽しませてやろうではないか。この溶けた蠟で形成した鞭でな！」

法王の手に熱気を揺らめかせる白鞭が現れたのを見て、朱線を浮かべる桃尻がわなないた。その寒気が膀胱まで伝わり、たまらず陰肉を捲り開いてしまい、ジュツと潮を噴いてしまう。すかさず白鞭が走り、楓は柔肉が波打つほどしたたかにお尻を打たれた。

「熱いいッ」と楓の陰唇がまたも幼くくるまり、潮噴きを強制中断させられる。べつたりと桃尻についた溶けた蠟が、火傷をしないぎりぎりの熱さで尻肌を焼いた後、白く固まる。「酷ひえなあ。なら俺様は、打たれるたびに絶頂の電流が走る鞭で喜ばせてやるぜえ」

再び陰唇が尿口ごと捲れ膨らみ、ジュワツと潮を噴き出してしまうと、吊られた男の紫電を纏った縄が閃いた。

桃尻にこびりついた蠟を叩き落とされた瞬間、絶頂の稲妻が尾骨から子宮を貫いて脳髓まで走り、楓は「あひひいいいいッ」と尿口を締めさせられた。

それからはもう滅茶苦茶だった。

一滴でも漏らそうものなら、即座に三方から鞭で打たれて陰唇ごと尿口を強張らされ、潮が途切れ途切れにしか噴けなくなる。

女帝の鞭に双乳をビシュツと左右へ払われて「痛いッ」と淡桜色の乳頭を躍り回らされ、

吊られた男の縄でお臍をバチリと叩かれて「ひゃん」と子宮へ直接、絶頂波を叩きこまれ、法王の白鞭に幼裂をビチュツとなぞり打たれて「熱い」と陰唇中を蠟漬けにされる。

「胸もお尻もあそこも叩くなっ…ひゃん!? もう私の身体をおもちゃにするな馬鹿アツ」  
生理現象さえ操られて鬨りにされる恥辱で、楓の涙が止まらなくなる。

三種の鞭が暴風雨となつて、上着から絞り出された美乳、艶やかな髪房が落ちる汗だくの背中、真上へ吊られて痙攣する太腿、限界まで割られた桃尻、その間から迫り出すぬめりあえぐ幼陰唇と降り注ぎ、被虐性感と絶頂で肢体中が文字通り真っ赤に焼き上げられる。噴いても噴いても尿袋を恥液で膨らまされ、楓は髪を振り乱して涙を千切り飛ばした。

「もう鞭でおしっこ止めさせないでえ…あひん…潮噴きい…楓に潮噴きさせてよおツ」  
もはや楓は、恥ずかしい言葉で潮噴きを懇願するほど、半狂乱になっていた。

この淫惨すぎる鞭責めから一刻も早く逃げようと渾身の力で息むと、絶頂蜜がどろどろと伝う肛門が捲れ裏返り、膨らんだ桃口からぶじゅると透明な腸液まで噴いてしまった。

恥ずかしさで死にそうになったが、もうこうして息み続けていないと、いつまでたつても潮噴きが終わらないのだ。

楓は排泄反射に突き動かされるがまま、すすり泣きながら潮と蜜と腸液を絞っていった。朱色に腫れ上がった白蠟まみれの尻房ごと割り捲るように幼陰唇を膨らませ、ぐちゃりと晒した尿口と膣口から霧状の潮と蜜をシュワツと噴く。肛門も菊皺がピンと伸びきるほど桃口を膨らみ広げ、楓特有の透明便かと思うほど特濃な腸液をブジジュツと漏らす。



その瞬間に三方から鞭打たれ、過敏な肛門で半固形腸液を気持ち悪く割り潰させられる。その淫猥すぎる繰り返しに耐えきれず暴れると、吊られた肢体が再び回転を始めた。

照明を浴びる中、潮と絶頂蜜どころか半固形腸液すらも周囲へ散り撒かれ、甘い楓の湯気が舞台中に立ち上る。

全校生徒にどよめかれ、楓はもう本当に消え入りたくなつた。

「うつく：もう私がお尻から漏らすところなんて：ぐすつ：みんなに見せないでよおつ」  
そうして鞭の嵐に二十分以上も翻弄された後、楓はようやく潮と蜜と腸液を絞りきるこ  
とができた。

子宮の底まで真つ白にさせられた楓は、肢体をだらりとさせて虚脱していた。

と、縄がすべて外れて腫れたお尻でピタンと尻餅をついてしまい、  
「ひゃんっ!？」と叩き起こされる。

意識がはつきりしてくると、延々と演じさせられた恥行為が脳裏に蘇り、楓の白頬がポツと火を噴いた。丸見えになっている双乳を慌てて上着にしまつて、うつむいてしまう。

だが女帝に冷たく睨み下ろされただけで、尻肉が縮み上がった。

すつかり怯えた楓は、黒いハイネックタンクトップの両脇から、隠したばかりの美乳を自ら恥ずかしく絞り出した。

それどころか、膝立ちになつてミニスカートの左右の裾をつまみ、お臍が見えるほど赤

いフレア布を裏返しにして、どろどろになった桃尻と縦皺がまだ痙攣する幼陰唇を、主人に奉仕肉具を捧げ見せる雌奴隷のごとく剥き出しにしてしまう。

「ふふっ、可愛いわ。ようやく躡が行き届いたみたいね。あら？　もう鞭の腫れが引いてきてるわね。どれだけいたぶっても壊れないなんて、なんて便利な性玩具なのかしら」

女帝の嘲り通り、楓の柔肌中を覆っていた腫れが、いつの間にか治まりつつあった。

だが赤みが薄らいでいるだけに、白くきめ細かい柔肌に鞭跡だけが、くつきりと浮かび上がっている。

淡桜色の乳輪まで膨らませたままの美乳や、艶めかしくお臍を波打たせる細腹や、軟体生物のごとく縦皺を伸び縮みさせる幼陰唇や、黒いニーソックスから絞り出た太腿や、桃色の菊皺がヒクヒクと覗くほどあえいでいる桃尻に、幾百もの朱色の線が格子状に走る様は、赤い組紐でがんじがらめに緊縛されているかと思うほど扇情的な姿だった。

どれだけ異常な数の鞭打ちをされたか文字通り肌でわかり、楓は双乳とお尻を震わせた。おずおずと周囲を見ると、楓の半径三メートルの舞台には尿と潮と蜜の水溜まりができっており、自分ですら陶醉するほど濃い雌匂のする湯気がもわもわと立ち上っていた。

どろどろとした恥液溜まりに点々とある寒天状の透明な固形物が、自らの特濃腸液だと気づいた瞬間、楓は羞恥のあまり耳たぶまで真っ赤にして、摘んだスカート裾を胸元まで持ち上げて鞭跡まみれの幼陰唇と桃尻をさらに露わにして恥じらってしまった。

見知った生徒たちの眼前で辱められるのが、これほど辛く恥ずかしいとは思わなかった。

まだ陰莖で嬲られていないのに、昨夜の淫獄すら生温く思えるほど、心も誇りも子宮もすり潰されていく。気をすっかりもたないと、嗚咽が止まらなくなりそうだった。

舞台上に転がされた柏木が、鉛のごとく立ちこめる淫気を振り払うように苦しげに叫んだ。

「——くううッ、下衆どもがああッ！ それ以上、犀宮君を辱めるなああッ！」

強靱な精神で我に返った柏木に感化され、客席からもちらほらと怨嗟の聲が飛ぶ。

「ほう、楓お嬢様を『辱めるな』か。それは残念でしたな。これほど美しくいやらしい性玩具を捕らえた我々が、昨夜一晩なにも手を出さなかったとお思いですか？」

周囲がざわめき、楓の肩がビクンと跳ねた。

口を歪めた犀司が、楽しげに続ける。

「すでに楓お嬢様は、我々に『辱め』られているのですよ」

「う、嘘だッ、犀宮君に……そんな下衆な行爲が……できるはずが……」

先細りになっていく柏木の声は、もはや切実な願いのようだった。

吊られた男が、貧相なロープ姿を揺すって嘲笑う。

「嘘じゃねえさ！ 昨夜は、お前たちのマドンナを四人がかりで、朝まで滅茶苦茶に犯したんだからなあ。このお上品な唇やおまんこどころか、子宮口まで開いて俺たちのチンポに吸いついてきて、ズルズルと美味しそうに精液をすすってやがったんだぜえ？」

ヒクンと楓の子宮が波打つ。法王がわななく桃菊を覗きこんできた。

「唇や膣口はもちろんだが、この可憐な桃色をした肛門は特に絶品であつたな。便口をま

ん丸と広げながらも、直腸からS字結腸まで使つて締めつけて、肛門の蠢きだけで私の陰茎をしごき立ててきおる。あまりの気持ちよさに五十回は精液浣腸をしてしまったぞ」

羞恥のあまり菊皺の痙攣が増してぐちゃりと桃口を広げると、女帝が冷たく笑つた。

「この娘が自ら裸をさらけ出してるのを見れば、私たちの言葉が本当なのはわかるでしょ。口とおまんこと肛門を、陰茎で同時に何百回もどろどろにして、ここまで躡けたのよ？」

柏木や生徒らのおろおろと狼狽した二百もの視線が、舞台の楓に突き刺さってくる。

身の潔白を説明しようにも、今まさに自らスカートを捲り、美乳と幼陰唇と柔尻を丸出しにさせている姿では、どうしようもない。

……そもそも楓は潔白ではないのだから。

紅潮した美貌を上げられない楓を見て、犀司らの言葉が真実だと悟つたのだろう。

生徒たちの心に築かれていた楓の女神像が、儂く壊れていく音はつきりと聞こえた。

沈黙に耐えきれず楓が顎を上げると、男子も女子も教師も柏木ですらも、神に見放されたような愕然とした顔のまま硬直していた。

——楓の魂が悲鳴を上げる。

「み、見ないで……みんな、そんな目で私を見ないでっ！」

その絶望の視線に晒されるのは、楓が今までに受けたどんな辱めよりも辛かった。

「さて。みなにもこれで、楓お嬢様がどれほど美しくいやらしい性玩具なのかは理解でき

たでしょう。次はその性玩具の使い心地が、いかに素晴らしいかを教えてあげますよ」  
犀司が顎をしゃくると、吊られた男が鞭縄を振るった。舞台に転がる柏木の股間に鞭先が当たり、ズボンとトランクスの前が破かれる。

そこからブルンと跳ね上がった肉柱を見て、楓は愕然となった。

客席がざわめき、女帝が濡れた唇を妖艶に弛める。

「あらあら、生徒会長さん。貧相な陰茎を笑ってやろうかと思ったら、なかなか立派な物を持つてるじゃない。でもそんなにいきり勃たせてるってことは、もうこの娘を学園のマドンナとしてじゃなく、性玩具として見てるってことよね？」

かつてないほどに勃起しているのだろう。

露わになった柏木の陰茎は、少年らしからぬ長大さでそそり勃っていた。

鈴口から大量の先走り液を垂らしながら、赤黒い亀頭をはち切れんばかりにビクビクと蠢動させる様は、肉茎の根元が縛られているかと思うほどだ。

他人を巻きこめない身の上、あまり親しい間柄にはなれなかったが、楓はこの生徒会長の柏木真一郎を、霧島、フレイ、アルミニに続くほど密かに信頼している。

血統に恵まれずとも、学園第三位の魔術師と称されるまでに至った努力家であることも尊敬に値するが、なにより正義を体現するように潔癖な彼の人柄は、見ているだけで爽快なのだ。人と触れ合わぬよう心を抑制していなかったら、もしかしたら楓は彼に惚れていたのかもしれない。

猛烈なおぞましきで淡桜色の乳首をふるふると暴れさせるが、すぐに肉紐で双乳をくくり止められ、胸脂肪をパン生地のごとくグニュグニュとこね回されてしまう。

両脇やお臍や背中やうなじや髪の毛も、ふたたび様々な肉ブラシでくすぐられていく。もはや気持ち悪さでもがこうにも、身体のだの部分も触手まみれで動かせない。

さらには、抽送を続ける肉塊と蜜壺の隙間にも、歯ブラシ状の触手が潜りこんできて、陰核裏に潜むGスポットを、潮でも噴かせる勢いでグシユシユッと磨かれる。

たまらず「ひぶん!？」と、より痲り勃ててしまった陰核にも肉管が取りつき、桜豆が伸びるほどの吸引をされて、「あむん——ッ」と恥垢まみれの肉轡を噛みしめてしまう。

ついには、肉塊が出入りする膣口と丸肛門の隙間にも、糸蚯蚓状の極細触手が十本単位で、うぞうぞとぬめり入ってきて、楓はもう本当に気が狂いそうになった。

「もうみんな楓を許ひてっ……ぐむゅッ……あそこもお尻もそんなに一杯入ってこないでッ」  
楓のお腹に丸い膨らみがぼこんぼこんと浮かぶほど、子宮がキュウキュウと跳ね回る。

疣まみれの触手で二穴をぐしゅぐしゅとこね回されながら、百にも及ぼうかという糸蚯蚓の束が、前は子宮まで、後ろは結腸のS字を溯って大腸にまで雪崩れ入ってきた。

『うわっ。呪術針の文様が発光してるから、楓さんの子宮の中まで丸見えになってるぞ』  
『ああんっ、犀宮さんの大腸の中も丸見えになってるう。こんな奥まで、いやらしい疣にびっしり覆われてるなんてっ。犀宮さんの大腸、どれだけ感じやすいの?』

興奮した生徒たちに、結腸中で大きな逆U字の腸詰めを作らされ、胎内の左右に開いた



卵管にも糸蚯蚓に潜りこまれて、終点にある二つの卵巣がヒクヒクと痙攣する。

とどめとばかりに、まん丸と膨らみきった双乳に肉の搾乳機が吸いついた。

「そ、それだけは、もうやらあつ、おっぱいを搾るのだけは——んぶゆんんんんんッ!!」  
胸脂肪が波打つほどの搾乳がブジュジュジュ——と始まり、楓は二穴から陰茎状触手が抜けるほど、お尻をはね上げた。

と、大量の糸蚯蚓を根のごとく生やした桃尻が、すぐに脱力して落ちてくる。

ぐぷりりと二穴に唾え直してしまったのは、——先ほどとは違うナマコ状と数珠状の触手だった。違和感で蜜壺と直腸壺が締めまり、一しごきでぶびゆるッと射精させてしまう。

たまらず尻房をはね上げて肉塊を引き抜いた楓は、下を見て戦慄した。

一つとして同じ形状のない様々な触手が、三十本以上も待ち構えていたからだ。

苛烈な搾乳による絶頂痙攣のせいで、腰を上下に振り立てるのが止められない。

パイプブラシ状の触手で膣道を磨かれたかと思えば、ぐるぐると回転するドリル状触手で桃菊を螺旋状にされる。枝分かれした珊瑚状触手で蜜壺を拡張されたかと思えば、精液を噴き出して伸び縮みする蛇腹状触手で直腸を膨らまされる。

「おっぱい搾るの、もうやめてえ——ッ、お尻が勝手に動いちゃううっ…むぶゆ…そんないろんな形で、楓のあそこお尻を虐めないでっ…んぶうッ…精液出すのも駄目えっ」

お尻を落とすたびに、大好きなお菓子を一口ずつ頬張るがごとく、桜色の膣口と丸肛門が違う触手をぐぷりぐぷりと丸呑みして、ビュルビュルと精液を絞り取ってしまう。



『すげえ。全部の触手を一しごきでイカせてるよ』『犀宮さんのまんこと尻穴、どれだけ名器なんだよ』『美味しそうに、ぐちゃぐちゃ触手を食い散らかしやがって』

『楓ちゃん、欲張りだな。女の子がそんな嬉しそうにケツ振って、恥ずかしくないの?』  
 全校生徒にどつと笑われて涙がこぼれたが、上下する桃尻がどうやっても止まらない。  
 と、全身にまとわりついた触手が次々に、ぶびゆるるッどびゆるるッどびゆるるッと射精していく。  
 猛臭を放つ精液が脇の下や背中やお臍や四肢ではじけ、首から下が蠟人形のごとく白い粘液で分厚く覆われていく。喉奥にも、どぶゆるるッと大量の生臭い子種を叩きつけられ、  
 楓は「ぐみゆう!!」と溺れそうになる。

たまらず肉轡を吐き出そうとしたが、美貌を挟みこんでいる両耳の触手にも、ぶじゅぶじゅと射精されて鼓膜まで精液で洗われてしまっは、「ぶみゆう——ッ」と雄汁の混じった涙をポタポタとこぼしながらも、精餌をごくごくと飲み干していくしかない。

混乱の極致に達した楓を嘲笑うように、二穴に詰まった糸蚯蚓状触手も蠢動を始めた。卵管にまで潜りこんだ触手が白い腐液を吐き出し、二つの卵巣までぶくりと膨らませながら、石膏で型を取るように、女の子の大切な器官をみっちり雄汁詰めにしていく。

胎内を駝鳥の卵大にも太らされたところで、大腸でも精液の充填が、どびゆるるッぶびゆるるッと開始され、楓はあつという間に、妊娠六ヶ月ほどの孕み腹にされてしまった。

そうした膨大な種付けをされながらも、楓はあらゆる形状の触手で二穴を挟られ続けているのだ。息むのを我慢できるはずもなく、お尻を高々とはね上げるたびに、糸蚯蚓の根

が張った8の字の二穴から、ブジュールグジュールと白濁液を噴き散らしてしまう。

「恥ずかひい、こんなの恥ずかひいよおっ……ンぶうツ……もう精液漏らすのも、お尻振るのもやらあつ……ぐみゅう……もうお尻の下から触手どけてよおっ、ひあああああ——ツツ」  
ひとときわ高い絶頂に打ち上げられた楓は、触手の肉椅子にぶじゅりりと尻餅をついたまま、糸が切れた操り人形のようにぐったりとなつてしまった。

楓が休憩できたのも束の間。すぐに搾乳機でズズズ——ツと乳塊を吸われて叩き起こされ、腰振りによる触手しごきと精液排泄を、ぶじゅぶじゅと再開させられてしまう。

「あなたたち、もういい加減にやめなさいなっ！ 楓が……楓があつ」

狭い鳥籠の中で座りこまれたフレイは、鉄格子を揺さ振って足元を睨んだ。

手の届きそうな眼下にたむろする男子生徒たちは、フレイの悲痛な叫びにも耳を貸さず、欲望のままに陰茎をしごき立てて、床に精液を撒き散らしている。

その場末の男湯より醜い光景と、公衆の男子便所を彷彿させる猛臭で、フレイの背筋が凍りついたが、楓の身を案じると、おぞましきより怒りの方が勝った。

ピエロ帽子を揺らして近寄ってきた魔術師が、にこりと笑って指を鳴らした。

鳥籠型の檻がゆつくりとおろされ、男子たちの腰の位置で静止する。

狂乱する男子たちがゾンビのごとく檻に群がったが、鉄格子の隙間が細いため、指を入れて、檻をガチャガチャと揺ることしかできない。

フレイは気丈にも、緑色の瞳に怒りをみなぎらせて周囲を睨み返したが、精液でぬめる亀頭をすぐ間近から大量に向けられると、「ひッ」と美貌を強張らせてしまう。

「フレイちゃん、自分が身代わりになってデモ、楓ちゃんを助きたいデスカ？」

魔術師の問いかけに、フレイは即答した。

「助けたいに決まっていますわっ、お望みでしたらわたくしが代わりますから、楓をもう休ませてあげてくださいなっ」

勢いで口にしたのではない。楓がされている触手拷問の凄まじさを正確に理解したうえで、歯をガチガチと鳴らしながらも、心の底から楓の身代わりになりたいと思っただのだ。

「フレイ駄目っ、私はいいからっ、私は慣れてるから大丈夫だからッ——ぶむううッ!」

楓が必死な声で制止したが、すぐに子種と恥垢まみれの肉塊で唇を塞がれてしまう。

「美しい友情デスネー。でもフレイちゃんにきつい責めをするノハ、ご主人様に止められるからドウシヨウ……」魔術師は、しばし考えこむと手を叩いた。

「マタマタ、面白い遊びを考えちゃいマシター。フレイちゃんがオナニーをして絶頂すれば、イッた場所の触手を一つだけ消せるようにシマシタ。さあ、どんどんオナニーしてイキまくって、楓ちゃんを救っちゃってクダサイ」

フレイは腰まで届く艶やかな金髪を、ひくんと跳ねさせた。

確かに、触手で捌られるよりは遥かにましだが、見知った男子たちが間近から視姦する中で、自慰をするのを想像すると、恥辱で声が震えてしまう。

白い美脚もM字に広げられ、とろとろに濡れ咲いた陰唇が、むちゅつと突き出される。フレイの頬がさらに紅潮したが、羞恥拘束はまだ終わりではない。白いソックスと黒いハイヒールを履いた両足が持ち上がり、後転をするように身体が窮屈に折り畳まれていく。「ひ!? ま、まさかっ……あ、ああっ、やめてくださいなあっ」

豊かな胸脂肪がぶるんと顎に垂れ落ち、両膝が頭の左右につくほどの極端な逆さ前屈を強いられ、裏返しになったスカートが腰で純白の布花をふわりと咲かせてしまう。

むっちりとした脂肪が乗った裸の豊臀が身体の頂点に晒され、周囲の熱気が爆発した。

「こんな恥ずかしい格好にしないでくださいなあッ……ああっ……ぜ、全部見られてますわぁ」  
純白のスカート花から急角度で膨らんだ双臀の谷間で、整然と揃った桜色の花卉がすっかり熟れ咲いて蜜を垂らしており、痾り勃つ桜豆もヒクつく尿口もひだまみれの蜜管を覗かせる膣口も、丸見えになっている。さらに頂点では褐色の排泄口が、淑やかな菊皺を軟体生物のごとくグチグチと伸び縮みさせて、淫猥に自己主張していた。

もうフレイは豊臀をカアツと桃色に染めて「ああっ、ああうっ」ともがいたが、両脚も魔術で動かさなくなっており、女の子の最も恥ずかしい二穴を掲げ見せる究極の羞恥姿勢になったまま、紅潮した桃尻をむちむちと躍らせることしかできなかった。

楓と同じく学園のマドンナである白人の高飛車お嬢様が、美貌と豊乳と陰唇と肛門を、ごく狭い範囲に寄せられて見せ物にされている姿に、生徒たちの興奮が最高潮に達した。

「うわ。ピンクのおまんこも肛門も丸見え」「フレイさん、おまんこドロドロじゃん。よ

「ほど感じてたんだな」「あのフレイさんが、まんぐり返ししてんだから、たまんねえよな」「フレイさんの肛門、凄えビクビクしてる。見られてるだけでイッちゃうんじゃないか？」

ねっとりとした大量の視線が、菊皺の褐色を漂白するように染み入ってきて、フレイは緑色の瞳を覆う涙の膜をじわりと膨らませた。極限を超えた羞恥で子宮がキュンキュンと暴れ回るが、恥ずかしさだけが際限なく高まるばかりで達することができない。

「こ、こんな格好では…ああうっ…ぜ、絶頂することなど、できるはずありませんわっ」「心配ご無用デス。フレイちゃんニハ、もつと恥ずかしい目にあつて貰いますカラ」

紅色の靴べら状触手が八本、鳥籠の外からぬめり伸びてきた。

膣口と肛門に肉鉗子が四本ずつ、ぬちゃりと気持ち悪く引つかかり、二穴をぐちゃりと豊臀ごと広げられて桜色の四角形にされて、フレイの存在すべてが灼熱した。

「ひ、ひいいいい——ッ?! お、お尻もあそこも、そんなに広げないでくださいなあっ」

拡張されて四角柱にされたフレイの膣道と直腸は、楓と変わらぬほど淫猥に皺が寄っており、肉底で鯉の口のごとくヒクつく子宮口とS字結腸口まで丸見えになっていた。

「すっげえ。フレイさんの、奥の肉弁まで見えてる」「フレイさん、ほんとに性玩具になったんだな。楓さんと同じで、おまんこどころか尻穴の中まで、ひだまみれになってる」「くー、おまんこでも肛門でもいいから、早くこのエロ穴でチンポしごきてえなー」

「み、見ないでくださいッ…ああっ…わたくしのそんな奥まで見ないでくださいなあっ」

子宮口とS字結腸口まで大量の視線で抉り犯されたフレイは、とうとう見られただけで

「あひいンン——ッ!？」と達して、逆さになった豊乳をぶるんぶるんと震わせた。

大きな桃尻が収縮して、掲げた股間に楓のような幼裂がキュウウツと抉れ走るが、すぐに八本の肉鉗子で豊臀をぐちりと割り直されて、桜色の四角形を二つ並べさせられる。

二穴の底から迫り上がったドーナツ状の肉弁から、ビュビュツと噴いた絶頂蜜と透明な腸液が、精液のごとくべつたりと美貌を直撃してしまうと、周囲がどつと沸いた。

「ミンナー、この触手が雨どいみたいな形をしているのに気づいたカナ？ 今からみんなで精液をたっぷり注ぎコンデ、フレイちゃんを喜ばせてあげちゃいましょウ」

フレイの子宮が、戦慄でキュウウツと縮み上がった。

魔術師に煽られるがまま陰茎を粘りしごく男子たちが、鳥籠の外まで放射状に伸びる肉鉗子の上に、ぶびゆるッどびゆるるッど十人単位で大量の子種を絞り出していく。

触手の表面に染みこむことなく弾かれた精液が、肉鉗子を文字通り雨どいのごとく伝つて、集中豪雨にあった軒先のような勢いで、どろどろと二穴へと雪崩れこんでくる。

「——いやあああッ、わたくしの中に、お、男の人の汚い液がどんどん流れこんでえっ」

身体の頂点に掲げた二つの肉杯が生臭い腐粘液で、あつという間に満杯になり、フレイはもう気が変になりそうになった。と、子種に反応した奥の肉弁が勝手に開き、白濁液がズズツと渦を巻いて、子宮とS字結腸に呑みこまれていく。

見知った男子の数十億という子種が、神聖な胎内で卵子を探して、うようよと泳いでいる様すらはつきりと知覚できて、「あひい!？」と子宮で達してしまうと、精液浣腸をさ



れた結腸でも被虐性感がはち切れて、「くあんソン!？」と絶頂してしまふ。

フレイは二穴に溶けた蠟を詰められたように、桃尻をはしたなく振り乱して混乱した。

「もうやめてくださいいなあッ：いくッ、ひくうッ：子宮もお尻も、せ、精液でイクのが止まらなくなつてますわッ：あひいッ：もうこんな汚い精液でイクのは——ふみゅう!？」

口端にも二本の靴べら状触手を引っかけられ、強制口姦の準備をされるように、桜色の唇をぐちゃりと左右に開かれてしまふ。容赦なくおびただしい腐粘液が、どろどろと口内へ雪崩れこんできて、フレイの舌から鼻腔までおぞましい子種の味わいがはじけた。

「精液いふうう——ッ：むぶッ：おくひが勝手にい：ぐむゆ：精液を飲んれますわあッ」

精液狂いになつた口が勝手に精餌を食べ始めると、喉奥でも達するのが止まらなくなり、フレイはもう本当に気が狂いそうになつた。三穴から流入してくる子種の暴力的なおぞましきで、魂も女の子の尊厳も精液漬けになつていく。

理性までもが白濁したフレイは、それでも楓を救わなくてはと、不格好に開かれた唇から舌を突き出し、股間から溢れた精液でどろどろになつた両乳首を舐めすすつていく。

「楓ッ：あむゆ：楓えッ：あぶゆ：もう楓には酷いこと、しなひでくらすいなあッ」

フレイの必死な懇願も虚しく、楓を犯す触手は、やはり消える端から再生されていく。

「ああッ、フレイ、フレイいッ……私はいいからあ、もうフレイは許ひてあげてよおッ」  
フレイと楓は互いの名前を呼びながら、夕方になるまで三穴で精液を吞まされ続けた。



次の朝。楓とフレイは、例の『性贖専用拘束ドレス』である、ミディ丈の美麗な純白ウエディングドレスを着させられ、ついに男子生徒たちに犯されることになった。

ドレスで羞恥と性感をより高められた二人は、ノーパンのお尻から覗く菊皺に、犀司の左右の二指を根元まで埋められ、肛門で恥辱のエスコートをされながら引き立てられた。

楓とフレイは、何度も立ち止まってしゃがみこみそうになるが、そのたびに菊皺をグリりと縦に伸ばされて、白いミュールを爪先立ちにさせられ、歩みを再開させられてしまう。そうして、サーカス小屋に到着した頃には、もう楓とフレイは、おでこから爪先まで紅潮しきつて、脳裏も直腸もどろどろにとろけていた。

巨大な天幕の中に入ると、待っていた百人以上もの男子と教師の歓声が爆発した。

その全員が全裸で、陰茎をそそり勃たせているのを見て、楓とフレイは繋いでいた白い手袋を握り合わせて寄り添い、頭を飾っている豪華なベールをわななかせた。

「お待たせしましたな。では本日から性交を解禁します。まずは楓お嬢様から、諸君らの陰茎で存分に翳って、より性贖の質を鍛練してやってください」

犀司に桃尻を押されて、ちゅぷんと二指を粘り抜かれた楓は、フレイが手を引き戻す暇もなく生徒たちに取りつかれ、男肉の渦に吞まれていった。

楓は儂い抵抗をするものの、熱く熱れきったうえにドレスで力を奪われた肢体は、簡単に組み伏せられてしまう。男子の何本もの手に、柔らかな床の上へ仰向けに寝かされると、

ビスチェワンピースの胸布から、ふるんと美乳がこぼれてしまった。

さらに、白いミュールを履いた美脚をM字に開かれ、カーネーションのごとく重なる純白の可憐なスカート花から、縦に食いこむ濡れた陰唇をむちゆりと露わにされてしまう。

「い、いやッ、やめてっ……ああ……みんな、それだけは許してッ」

楓の脳裏に、幼少時に受けた針拷問の光景がフラッシュする。陰茎をそそり勃たせて、楓の華奢な肢体を押さえつけている男子たちが、呪術針を打つ暴漢の姿と重なった。

もう楓は陰唇の縦皺をキュウキュウと肛門まで伸び縮みさせて、処女のごとく震えた。

「そんなに怯えなくても大丈夫だよ。最初は、生徒会長に優しく犯して貰えるからさ」  
ぎくりとした楓が美貌を上げると、目の前に生徒会長の柏木が立っていた。

「すまない、犀宮君。もう私は……これ以上、自分を制することができない」

そういつた柏木の白皙の顔は、血涙を流さんばかりに苦悶で歪んでいた。

彼は昨日の狂乱に唯一、荷担していなかったが、それが理性の限界だったのだろう。

高潔だった彼の苦しみを思うと、楓は『やめて』とはいえなくなってしまう。

熱固い亀頭を押し当てられると、楓の熟れ蕩けた陰肉が勝手に捲れ開き、少年らしからぬたくましい陰茎をたやすく根元まで、ぢゅぷんと丸呑みしてしまう。

「あううっ!!」と楓は膣管を絞って達してしまいが、柏木は構わず、絡みつく肉ひだを振りほどくように抽送を開始した。

どれほど楓に恋い焦がれていたかを伝えるように、蜜壺をねっとり上下左右にこね回

されながら、傘の張った亀頭でひだ中の蜜汚れをグシグシと掃除される。

「会長っ：あんっ：そんなに中を掻き混ぜないでくださいっ：ひんっ：おかしくなるう」

密かに信頼している彼から、そんな熱烈な腰使いをされると、もう楓は自分を保てなくなった。犀司に捕らえられて以来、どす黒い欲情ばかり叩きつけられていた心が、彼からありありと伝わってくる温かい愛情で、めろめろになっていく。

膣道が雑巾絞りにされたようにキュウウツとねじれ締まると、たまらず柏木の肉竿が蠢動した。グジュリと子宮口を突き上げられ、どぶゆるツぶびゆるツと放たれた大量の精液を、残らず胎内に注ぎこまれてしまう。

脳裏から子宮まで白濁した楓は、奇妙な幸福感を伴った深い絶頂に吞まれてしまった。

「ああううう——ッ……か、会長の精液があ：あんっ：全部、子宮の中に入ってます」

と、子種に昂奮した楓特有の柔らかい子宮口が、くふんと亀頭を丸呑みしてしまう。

愛しい肉塊を放すまいと亀頭に吸いついた胎内が、そのままキュウキュウと上下動して、楓は「ひいひい、ひいひい」と達しながらも、子宮の動きだけで陰茎をしごき立ててしまう。

四肢を押さえつけていた男たちの手が離れると、楓はもうたまらなくなかった。

柏木の背中に白い両手袋を回して、彼の胸板で美乳をぶちゆりと潰し、さらに白いミュールを履いた美脚まで彼の腰に絡めて、陰茎をさらに深くグジュリと迎え入れてしまう。

とうとう雌猿のごとくはしたなく柏木にぶら下がったまま、「あうっ、ああううっ」と腰を振り乱し始めてしまうと、周囲がどっと沸いた。

八方から嘲笑を浴びせられた楓は、羞恥の沼底に叩き落とされたが、蜜でどろどろになった桃尻を、ぐちゅぐちゅと粘り振るうのをやめられない。

恋人に助けを求めるように柏木に口づけをしようと、彼の舌が口内にぬめり入ってきて、さらに脳裏が甘く痺れた。もう楓は感情を堪えられず、紫色の瞳に涙の膜を膨らませながら、クチュクチュと舌を絡み合わせて唾液の交換をしよう。

と、柏木と繋がったまま身体をひっくり返され、騎乗位の体勢にされた。

彼のたくましい肉塊にさらに深くグブルと着席してしまい、「くぁンン!!」とスカート花からお尻を飛び出させてしまうと、桃菊に新たな亀頭を押し当てられて戦慄する。

「お、お尻は許してっ……今、お尻とあそこを同時にされたら私い——ひぐううッ!!」

がらの悪い先輩のいびつな陰茎が、ぐじゅると容赦なく抉り入ってきて、楓の柔らかな桃尻が二人の男肉で潰された。8の字にされた二穴を引き締めて達してしまうと、子宮に吸いつかれた柏木の亀頭も、ぶびゅるるッと精を放ち、さらに深い境地へ追い遣られる。

尻肉ごと肛門をこね回され、腸液のホイップを作るようにグジュグジュと苛烈な抽送をされると、楓はもう柏木にすがりついて「ひいつ、ひあううっ」と悶えるばかりになる。

「なんだよ、このいやらしい肛門はッ。ほら、楓ちゃんの大好きな精液浣腸いくぞ!」

呆気なく達した先輩に、どぶゆるるッと大量に種付けをされると、直腸中が灼熱した。

「お尻イクうう——ッ、精液熱いい……あぐう……そんなに一杯出さないでくださいっ」

と、精液拷問のトラウマを刻みつけられた楓の排泄器官が怯えて、勝手に蠢く。

この続きは製品版をご購入の上、  
お楽しみください。

編集・発行

**株式会社キルタイムコミュニケーション**

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

**<http://ktcom.jp/>**

# キルタイムコミュニケーション小説シリーズ あなたはどのタイプ？



ドキドキラブな  
ハーレム系ライトノベル！



二次元  
ドリーム文庫

サイズ:文庫

戦うヒロインが屈服されちゃう！  
かなり過激なライトノベル！



二次元  
ドリームノベルズ

サイズ:新書

※「二次元ドリームノベルズ」は18歳未満の方は購入できません

日常に密着したエロス、リアルな  
舞台設定で送る官能小説レーベル！



リアルドリーム文庫

サイズ:文庫

フリーダム度120%!?  
ジャンルにとられないドキドキ★ラノベ！



あとみっく文庫

サイズ:文庫

詳しくはKTCの公式サイトにて！ <http://ktcom.jp/> 検索

Click

電子書籍版も各ダウンロードサイトにて続々配信中!!





# キルタイムコミュニケーション オフィシャルサイト

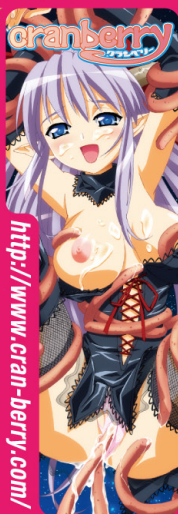
<http://ktcom.jp/>

- 雑誌、コミック、小説の通信販売もやってるよ!
- 二次元ドリームマガジン・コミックアンリアルのバックナンバーも買えるよ!
- ジャンル別で作品も選べて超便利!
- 二次元編集部のおいしいBlogも更新中!



<http://www.comic- Valkyrie.com/>

KTCの戦うヒロインオンライン漫画雑誌! 18禁ではないからこそ表現できるドキドキがある!!



<http://www.cran-berry.com/>

二次元ドリームノベルズがアニメにも進出! 新生ブランド・cranberryをよろしく!!



<http://www.mille-feuille.jp/>

二次元ドリームノベルズから生まれた美少女ゲーム! 「ミルフィーユ」ブランドにて続々登場!



<http://www.2d-dream.jp/>

二次元ドリームノベルズが携帯電話で読める! 携帯サイト限定の書き下ろし小説もあるよ!

